

第31期目録委員会記録 No.9

第9回委員会

日時：2008年4月26日（土）14時00分～16時00分

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：中井委員長，木下，平田，古川，渡邊

<事務局>磯部

[配付資料]

1. 2007年12月RDA草案第10章，第10章:家族の識別(Identifying families)概要（11ページ-A4，中井委員長）
2. 「RDA第10章家族の識別」参考資料（4ページ-A4，中井委員長）
3. 『国際目録原則覚書』草案への修正提案（改訂版）（3ページ-A4，古川委員）
4. 第31期目録委員会記録 No.8（3ページ-A4，事務局）

[報告事項]

1. 「次世代目録所在情報サービスの在り方について（中間報告）」について
平田委員より、国立情報学研究所が「次世代目録所在情報サービスの在り方について（中間報告）」を公開した旨、報告があった。また、中間報告などを題材としたワークショップを平成20年6月6日に開催する旨の報告があった。
2. FRBRの翻訳について
古川委員より、先にFRBRの翻訳をweb上に公開したが、改訂部分の翻訳についても5月中に公開する予定である旨の報告があった。

[検討事項]

1. RDA草案の第10章について
中井委員長より資料1,2に基づき、2007年12月草案の第10章について説明があり、意見交換を行った。主な指摘・意見は次の通り。
 - ・ 家族については、AACR2にはなく、RDAで新たに加えられた概念である。
 - ・ 図書館側の事務的な項目と利用者に提示する項目との区切りが明確でない。
 - ・ 「同じ名前の異なった形」と「同じ家族の異なった名前」は、順序が逆の方が規則としては良いと思われる。
 - ・ 件名標目として使う時のLCSHのマニュアルの方法とは異なり、“family”という語をあえて付記事項にしている理由が判らない。
 - ・ 家族のカテゴリーが何故持ち出されたのかは注視すべき問題である。MARCフォーマットの追認というネガティブな理由と、文書のコミュニティにもRDAの適用を広げようというポジティブな理由が考えられる。典拠レコードは、アクセスポイン

トとしては件名と著者名に共有されるので、新たに規定した可能性もある。

- ・ 2人以上であれば家族と定義されているが、兄弟・夫婦など線引きが難しい部分（例：グリム兄弟）がある。

前回委員会で決定した分担計画に基づき、次回は横山委員が11章のレビューを行う。

2. 『国際目録原則覚書』草案への修正提案について

古川委員より資料3に基づき、『国際目録原則覚書』草案への修正提案について、説明があり、意見交換を行った。主な指摘・意見は次の通り。

- ・ “name/title”の部分は説明不足ではあるが、修正案を出すのではなく、「特定の目録規則を知っている人にしか判らない」などの指摘をしてはどうか。
- ・ 修正の提案については、委員会の意見として出すのか、委員個人の意見として出すのか、今後決定する。

3. その他

今後の目録委員会に関して、次のような意見交換がなされた。

- ・ RDAの改訂が「On the Record」の勧告通りに中断された場合、NCRの改訂をどうすべきか検討する必要がある。
- ・ 目録規則を取巻く状況の変化が激しいので、NCRの課題を検討しても中には意味のないものになる事項があり得る。

次回以降の委員会の予定

5月24日（土）

6月21日（土）

7月26日（土）

以上